



発行者
文京学院大学
女子中学校
水上 茂

中学最後の体育祭

体育祭実行委員 三年栗組 木野知 心乃

私たちは、東京体育館において中学校生活最後の体育祭を迎えることができました。水上校長先生から今年の体育祭の心構えとして、「みんなで走ろう・楽しく走ろう・最後まで走ろう」ということばをいただきました。私は、体育祭実行委員として、三月から活動してきたことが、この日をもって実を結ぶので、全力でがんばろうと思えました。

私が出場したのは、大縄跳び・宅配便リレー・集団演技でした。大縄跳びは、練習期間が短く、あまり練習することができなかったのですが、本番では全員の力を合わせて、多くの回数を跳べたのでよかったと思います。宅配便リレーは、昨年行なった「三色昇」という競技を実行委員三役で見直しをし、考え出した競技でした。実際に行ってみると、バランスと速さを競い合う感じで、とても楽しかったです。さて中学三年生は、三年間の集大成として、集団演技『さくら』を踊りました。この演技を指導してくださいましたのは、沢柳先生です。先生は、七年前に起きた東日本大震災の時、当時の三年生がこの『さくら』を踊ったことを忘れられないとおっしゃいます。私たちが、先生の指導のもと、震災に立ち向かう勇気を忘れないように、華やかに舞う桜の花を意識して思い切り踊りました。演技終了後、先輩方が、「感動したよ」と声をかけてくれました。とても嬉しかったです。

閉会式の結果発表が行われ、一位は二年生のグリーンブロック、二位が三年生のレッドブロック、三位が一年生のブルーブロックでした。私たち三年生は三年間で一度も優勝することができませんでしたが、とても心に残る体育祭でした。この体育祭を支えてくださった生徒の皆さん、実行委員の皆さん、先生方、本当にありがとうございました。東京体育館で体育祭ができたことにも心から感謝します。

体育祭で学んだこと

一年桃組 猪瀬 里花子

私はこの体育祭で仲間と協力することの大切さを学びました。私たち二年桃組は台風の目の練習で、一度も学年一位になることができませんでした。ですから、私たちは体育祭で一位になることは難しいと思っていました。しかし、クラスみんなでどうすれば早いタイムになるかを話し合いました。

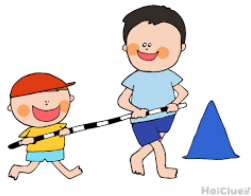
「一つ目。コーンを回る時は、小さく回る。二つ目。棒を飛ばす時は一回二階高く飛ばす。三つ目。みんなで声をかけ合う。」

この三つのことを主に話し合い、当日を迎えました。体育祭当日、今までみんなで話し合った三つのことを大切に思う気持ちは、一年桃組全員みんな同じだったと思います。そして、不安な気持ちもみんな同じでした。でもみんなで一つになって、たった一回しかないと本番に臨むことができました。だから、初めて一位になることができたのだと思います。一位になった瞬間はとても嬉しかったです。

今回の体育祭では、先輩方の走りや演技がとてもすごかったです。一生懸命走っているところなど、本当に格好良かったです。私も今の先輩方のように、来年入学して一年生に格好いいと思ってもらえるような先輩になりたいと思いました。

今年の優勝はグリーンブロックでした。来年は、私たちブルーブロックが優勝したいです。私はこの体育祭で協力することの大切さ、一生懸命やること、最後まであきらめないことが結果につながるのだと学びました。

最後になりますが、体育祭の準備をしてくれた実行委員のみなさん。体育科の先生方、その他の先生方など、この体育祭のために動いてくださったすべての方に感謝したいと思います。ありがとうございました。来年の体育祭も頑張りたいです。



「シルク・ド・ソレイユ」芸術鑑賞会

二年栗組 櫻井 和香

「なんか、もう、すごかった。」

一部始終鑑賞し終わって初めて口に出した言葉だった。きっとそのときの私は言いたいことがあり過ぎて逆に言葉が詰まってしまったのだろう。

彼らは、人間が普通にできないことを一ミリも失敗せずにこなしていた。この演技を披露するまでに相当な練習を積み重ねているはずだ。そんな彼らは、とても輝いて見えた。空中で一回転や、高いところできかさになるところなどを見ていたら、ハラハラしてこっちまで緊張していた。気がつくとなりのめりになってしまっていた。けっこう後ろの方なはずの席がとても近く感じられていた。

私は、家に帰って家族に長い時間話をした。そのときに、はっと気がついたのだ。彼らは私たちを自然と笑顔にしてくれていた。皆が皆、楽しんでいて、「ここがすごかったね」「あそこドキドキした」と話している人たちの顔は笑いあっていたのだ。そうやって、観客たちを楽しませる彼らは、「エンターテイナー」なのだ。私がまだ幼い頃に一度サーカスを見たことがあった。そのときとはまったく違った気持だった。彼らは今日も明日も明後日も一年後も人々を笑顔にさせ、楽しませ、喜ばせるだろう。

夜は、眠れなかった。思い出すだけで、ハラハラしてくる。でも、また見たいと思った。一年後にはまた見られるように願って私は部屋の電気を消した。また見られるその日まで。



